



ジュンコが行っちゃった

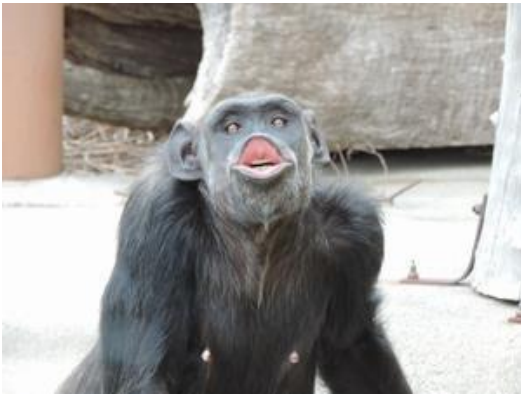
5月27日火曜日の午前中、そば降る雨の中を、メスのチンパンジー「ジュンコ」が、ひっそりとかみね動物園を去って行きました。行き先は岡山県池田動物園。ジュンコはそちらでまた新しい生活を始めることに。

私がジュンコと始めて顔を合わせたのは、園長になってすぐの7年前のある日のことでした。ジュンコは前年秋に某企業から寄贈される形で、推定17歳で来園しました。しかしかみねに来てからは、寝室のケージ越しにほかのメス個体とちょっとした争いを起こし、結局群れに合流せず半年以上も寝室で生活していました。飼育員からそうした経緯を聞いたうえで初めての暗い寝室で対面した時は、それなりに衝撃的でした。しかし、なぜかジュンコは始めてにもかかわらず私の方を向いて、ニツと唇を裏返すしぐさを見せたのです。私もその表情を見て、ああ初対面の私を認めてくれたのかな、と思いちょっと嬉しくなりました。私自身、役所の行政事務から突然の動物園長職、動物園への異動は嬉しかったのですが、反面、戸惑いのないはずもなく、どのように振る舞えばいいのかひとり自問する日が続いていました（これでも）。彼女の今おかれている境遇と相通ずるものを感じたのかもかもしれません。しかし、飼育員の話では、ジュンコは人の手で育てられたので人間にはなついているとのこと。しかし、そんな出会いの後、なぜか勝手に親近感を抱いた私は頻繁にジュンコに会いに行きました。



《ジュンコです》

行くとだいたいは初対面の時のように、唇を裏返してくるので、私も同じように裏返してやりました。また、その場でジャンプするとこちらもジャンプ。体を揺らすとこちらも右へ左へ。まああまりお客さんや飼育員がいるところではやりたくなかったのですが。するとそのうち、こちらが先に1回手を叩くとジュンコもパシッと1回手を叩くように。バイバイと手を振ると向こうは、バイバイよりも、「あっち行け、シッシツ」という感じで手を振るようになりました。もちろん毎回やってくれるわけではないのですが（お尻が腫れる発情期にこうした行動が顕著に観察されました）。こんなやりとりが続く中で、ジュンコは私にとってチンパンジーの中でも特別な存在になっていきました。



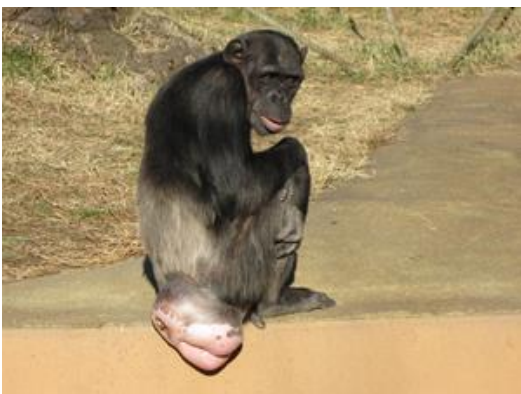
《お得意の唇裏返しでごあいさつ》

なんとか群れと合流し、新しいチンパンジーの森ができてからも私との関係(?)は続いていきました。しかし、チンパンジーたちの中ではジュンコはやはりギクシャクしていました。このため、ジュンコは、やはり群れと関係が良くなかったルナ(2012年没)と一緒に旧獣舎へ逆引越しをし、群れから離れて暮らしていたのです。



《冬は布を頭巾がわりに》

ジュンコは人間に育てられたわけですが、ここに動物飼育の難しさがあります。終生人間が飼い続けるのであればその動物は人間に寄り添った生涯を遂げることになり、ペット同様それはそれでよしとします。しかし、野生復帰や動物園などで群れ生活を営んでるところへ戻すのはどうしても困難が伴います。あえて反省というか自戒を込めて言うなら、私がジュンコにとった態度が群れに馴染めぬ一因であったかも知れません。



《お尻の腫脹期は特に親密に》

今回、池田動物園様が群れに馴染めぬ経緯を理解したうえでジュンコを受け入れてくれたことにとっても感謝しています。動物たちは、環境や境遇が変われば別なスイッチが入る可能性も否定できません。ジュンコが去って、個人的にはとても寂しいのですが、ジュンコのためにも一日も早く新しい環境に慣れてほしいと、ジュンコを乗せたトラックを見送りながら

願ったのでした。



2014年5月29日

顔、顔、顔

顔・顔・顔・・・たくさんの顔が私を見ている。でも皆同じ顔にしか見えない。おまえは誰だ？あなたは？どうして皆同じ顔なの——っ、ハッ夢か。

人間の顔は皆人それぞれ違います。どんなに似てる人だってどこか違う。そっくりさんが受けるのは、あまりに知られすぎた有名人と、どこかがなんか違う、というその崩れ加減が面白いわけで、まったく瓜二つなら面白いというより、ある意味奇跡です。もちろん一卵性双生児という例外はありますが、これとて遺伝子は同じでも、環境要因などによって微妙な違いは生じてくるものです。まして違う遺伝子をもった人間ならみな顔は違うし、見分けはつきます。では、顔を構成する基本的なコンテンツは一緒なのになぜ違って見えるのでしょうか。それは骨格や輪郭を始め、眉なり目なり鼻なりが全部微妙に違うからです。その少しずつの違いが全体として構成されたとき、始めてその人の顔ができあがります。私たち人間同士はその微妙な違いの情報を認識できます。



《かわいいけど同じ顔》

では、私たち以外の動物はどうでしょう。冒頭の夢の話ではありませんが、私たちから見て動物たち個々の顔の判別は非常に難しいものがあります。人間に近い類人猿などはまだ分かりやすいですが、同じ体毛をした動物同士、例えば動物園ではカピバラやマーラ、トラ、ライオン、ペンギンやフラミンゴなど、顔だけでの判別は非常に分かりにくい、っていうか私には分かりません。園長失格といわれようが、分からんものは分からんです。もちろん飼育員などはさすがに毎日付き合うため、顔以外の体の特徴などを総合的にとらえ、かなりの

確度で個体を識別していますが、それでも動物たち1頭1頭の健康管理を把握するため、保険をかけておきます。それが体の一部につける識別マークです。よくペンギンの羽などに色のついたリングがありますが、あれです。マールなども耳につけています。で、道具を使って人間は動物を個体識別できました。



《顔も見てる方向も・・・おんなじっス》

では、動物同士はどうなのでしょう。同じ種間で、おーお前か、とか、あらあなた、痩せたわね、とかわかるのでしょうか。それとも、あえて識別する必要はないのでしょうか。あるいは非常に優れた嗅覚で認識するのでしょうか。南極で抱卵中のオスのエンペラーペンギンにメスがエサを運んでくるシーンをテレビなんかで見ますが、同じ顔のペンギンがごまんという中でよく特定のパートナーを見つけられるな、と感心してしまいます。もしかするとやはり同じ種では分かりあえるのでしょうか。また、私たちが他の動物の顔を識別できないように、動物から見たら私たちもみな同じ顔に見えるのでしょうか。



《人気者も同じ顔なんです》

そんな私たちの顔、分かりやすく飼育員が手書きイラストでスタッフ紹介してくれました。一見ヘタなんです（失礼）、まことに特徴をとらえていて、ああ、やはり飼育員は動物を識別するのと同じように人間の特徴もとらえているんだなあ、と感心した次第でした。若干、楽屋オチの感もありますが、これを見て、どうぞ気軽にスタッフ（飼育員だけでなく事務屋さんや獣医いさんにも）に声をかけてみて下さい。



《シバヤギだって負けてません》

※こちらから[スタッフ紹介](#)に入れます。

※どうぶつのかくに「あっ、かみね動物園だ！」Vol.12は、[こちらから](#)（新しいウインドウが開きます）

2014年5月13日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)

[平成28年](#)

[平成27年](#)

平成26年

[平成26年12月](#)

[平成26年11月](#)

[平成26年10月](#)